

松浦川の川づくりの方向性

松浦川水系河川整備計画は、流域住民が安全、安心して暮らせるように、社会基盤の整備発達を図るとともに、自然豊かな河川環境を保全し、古くから大陸文化の伝来窓口として栄えた流域の風土、歴史、文化を踏まえ、流域の個性や活力を実感できる川づくりを目指すため、以下の基本理念にしたい、取り組みます。

河川整備の基本理念

「歴史と文化の継承 安らぎと緑ゆたかな松浦川」

3つの基軸

治水

松浦川流域住民の貴重な生命財産を守り、安全で安心できる川づくり

平成2年7月洪水を満足する概ね30年に1回の確率で発生する洪水に対して家屋浸水を防ぐとともに、内水対策や施設維持管理に努めます。

利水

松浦川の恵みに感謝し、豊かな社会が築ける川づくり

厳木ダム等の適正な管理・運用により、河川環境の保全や水利用に必要な流量の確保に努めます。

環境

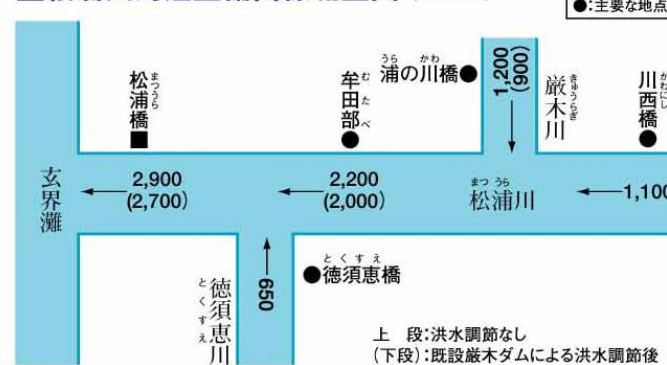
松浦川の自然豊かな環境や歴史文化漂う景観を保全・継承できる川づくり

動植物のための環境保全や氾濫原的湿地の再生に取り組み、利用空間の形成や景観保全に努めます。

■松浦川河川整備計画の対象区間



■松浦川河道整備目標流量図 (単位:m³/s)



河川名	上流端	下流端	区間延長
松浦川	佐賀県武雄市若木町本部字野々瀬3935番地先の萩の尾井堰	海へ至る	31.4km
徳須恵川	佐賀県伊万里市南波多町高瀬字大前田1291番地の2地先の市道橋	松浦川への合流点	14.5km
厳木川	左岸：佐賀県東松浦郡厳木町大字天川字野の平902番の1地先 右岸：同町大字広瀬字東宇土3番の3地先	松浦川への合流点	17.4km

※官報で告示された時点の地名で表示しており、現在の地名とは異なるものもあります。

治水

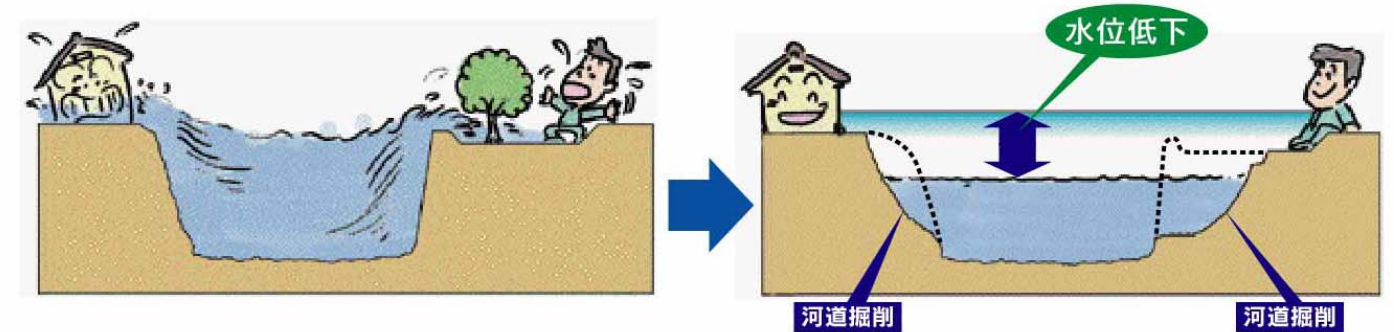
目指そう！流域の暮らしはみんなで守る。

松浦川流域住民の貴重な生命・財産を守り、安全で安心できる川づくり

概ね30年に一度起こるような規模の洪水に対して、家屋浸水を防止し、農作物への浸水被害を軽減するために

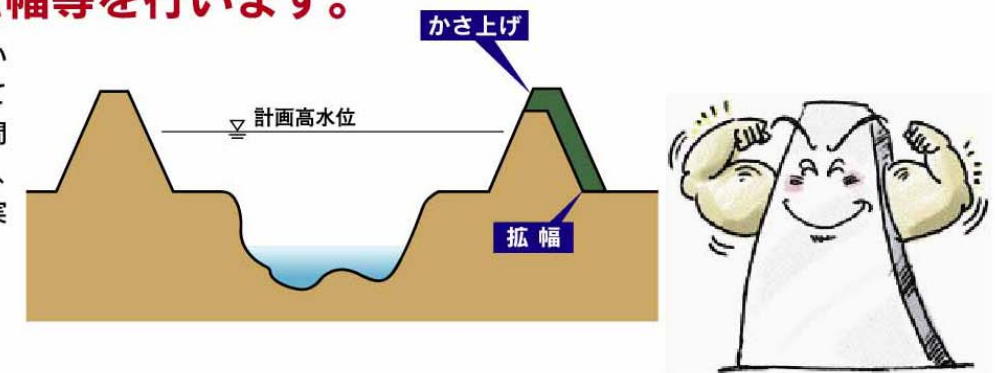
河道掘削や橋梁、堰を改築することにより、洪水を流す能力を向上させ、洪水時の水位を低下させます。

松浦川上流、徳須恵川上流および厳木川中流の河道断面が不足している箇所について、河道掘削、橋梁、堰などの構造物改築を行います。なお、掘削の際は、多様な動植物が生息・生育する河川環境に十分配慮して実施します。



堤防のかさ上げや拡幅等を行います。

堤防が所定の高さを有していない箇所において、整備目標流量に対して家屋浸水の可能性が懸念される区間については、堤防のかさ上げや拡幅、築堤、輪中堤のかさ上げ等の整備を実施します。



歴史的構造物を保全しつつ、治水と環境のバランスの取れた河川整備を行います。

松浦川の地形特性に応じ、家屋浸水を防止することを目標に、歴史的文化遺産として価値の高い大黒井堰、馬ノ頭伏せ越し、萩の尾堰(松浦川)、岩坂井堰(徳須恵川)等を保全した河川整備を行います。



萩の尾堰から引かれた水は、成富兵庫茂安によって作られた馬ノ頭伏せ越しにより、川底を通し、対岸の田畑を潤しています。



江戸初期に成富兵庫茂安により築造され、今もその役割を果たしています。



岩坂井堰(徳須恵川)江戸時代初期完成(推定)



大黒井堰(松浦川)1633年完成(推定)

▲寺沢志摩守の指示で工事が始まり、完成間近に洪水によって流された後、僧侶田代可休の進言により、ようやく完成しました。

治水 目指そう！流域の暮らしはみんなを守る。

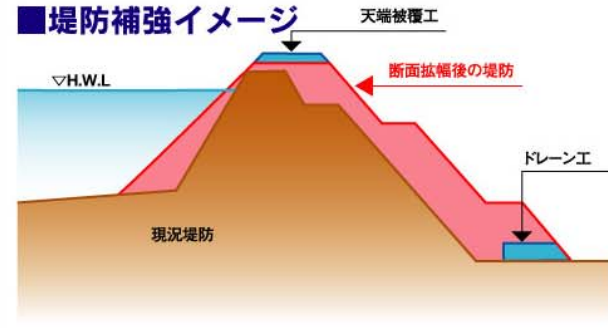
松浦川流域住民の貴重な生命・財産を守り、安全で安心できる川づくり

浸水被害を軽減するために

堤防の安全性の確保 および内水被害への 対応に努めます。

堤防の詳細点検を実施し、堤防強化対策が必要な箇所については、順次実施します。また内水対策については、今後の浸水実績に応じて、関係機関と連携して対応していきます。

堤防補強イメージ



排水機場位置図



災害を未然に防止または軽減するために、 松浦川維持管理計画に基づき、PDCAサイクルにより、 効率的かつ効果的な維持管理を行います。

- 治水上支障が生じないように、必要に応じて土砂等の除去や河道内樹木の伐採等を行います。
- 堤防、護岸、樋門・樋管、水門、排水機場、堰、ダム等の河川管理施設については、洪水に対して所要の機能が発揮されるよう、河川巡視や点検時に施設被害、機能不具合等の確認に努め、計画的な補修、施設の更新・改築等を行い、各施設の機能を良好な状態に維持します。



●河道内樹木

PDCAサイクルによるマネジメント概念図



●河川巡視



●堤防除草



●堤防天端不陸の補修前

補修

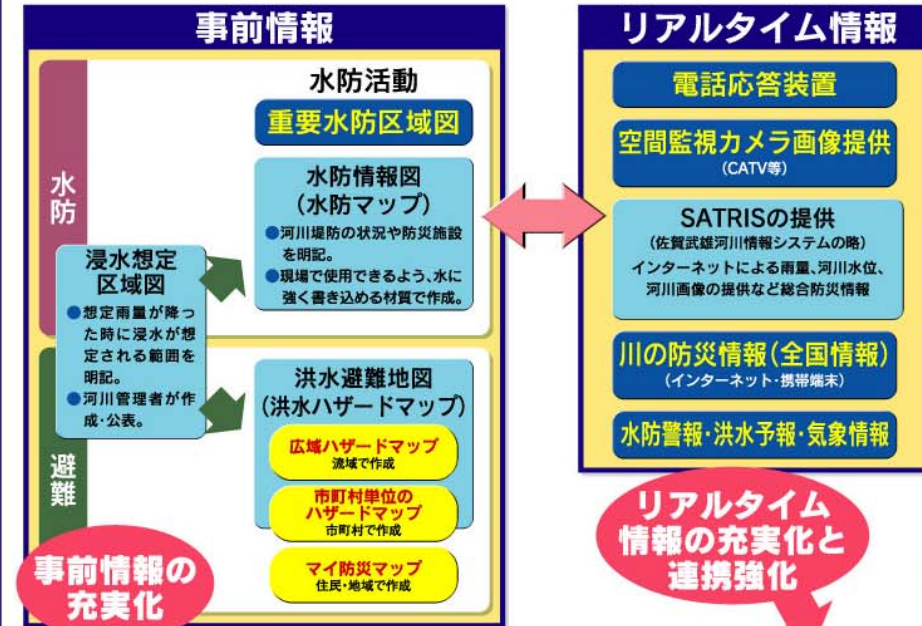


●堤防天端不陸の補修後

災害に強い地域づくりのために

危機管理を考えた災害に強いまちづくりを目指します。

災害時に必要な情報をインターネットや携帯電話でリアルタイムに提供することで、被害を最小限に抑えることができるよう、ソフト対策を推進します。また洪水ハザードマップを活用し、危機管理の観点からの普段のまちづくりを地域住民と協働で考えます。



マイ防災マップの作成 (松浦川 伊万里市大川町宿地区)



●水害履歴図記入状況
マイ防災マップとは、洪水ハザードマップを利用して、自分たちのまちを、自分たちで点検しながら作成する地域独自のよりわかりやすい、身近な防災マップです。

●防災まちづくりの手引き
(平成18年3月発行)

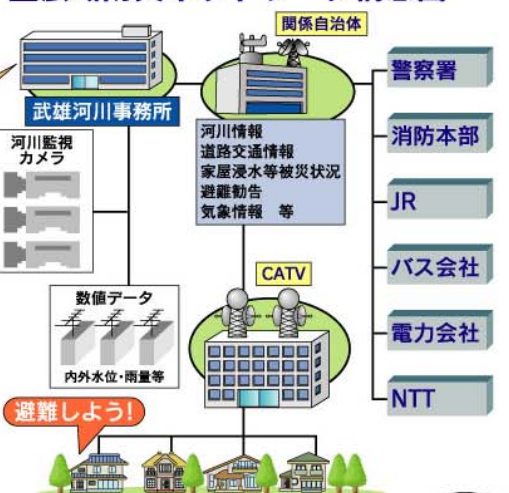


●SATRIS (サトリス)



●川の防災情報

広域防災ネットワーク構想図



利水 話し合おう！困った時こそ助け合い。

松浦川の恵みに感謝し、豊かな社会が築ける川づくり

適切な水利用や渇水発生時の被害を最小限に抑えるために

各機関と連携して、渇水時の円滑な水利調整を行います。

- 流水の正常な機能の維持等を図るため、厳木ダムから不特定用水を補給するとともに適正な水利用と河川環境の調和を図るため、河川流量の管理及び取水量等の把握をします。
- 渇水等の被害を最小限に抑えるために、情報提供、情報伝達体制を整備するとともに、水利利用者相互間の水融通の円滑化に向けた取り組みを関係機関及び水利使用者等と連携して推進します。
- 渇水時の対策が必要となった場合は、佐賀県及び関係市等と構成する「松浦川水系渇水対策連絡協議会」を開催し、適切な水利用がなされるよう、必要に応じて取水制限及び水源施設の総合運用等の渇水調整を行い渇水被害の軽減に努めます。



●渇水対策連絡協議会



●厳木ダム

河川環境 利活用

守り伝えよう！未来に誇れる松浦川を目指して。

松浦川の自然豊かな環境や歴史文化漂う景観を保全・継承できる川づくり

動植物の生息や生育環境を保全するために

河畔林、瀬・淵、砂礫河原の保全・再生に努めます。改修にあたっては十分な配慮を行います。

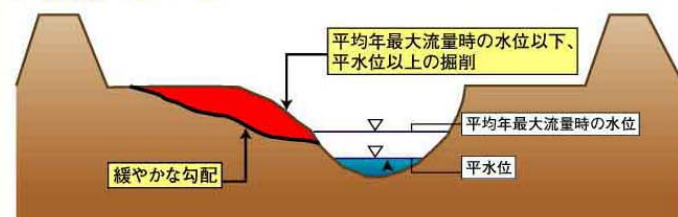
- 多様な動植物の生息・生育基盤となっている河畔林、瀬・淵、砂礫河原の保全・再生に努めます。



●松浦川上流の河畔林

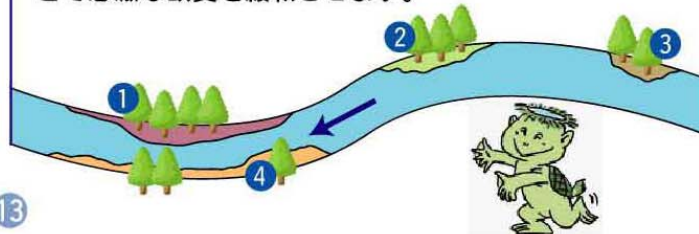
- 河道掘削を行う箇所は、生物の多様な生息・生育環境に配慮するため、平水位以上で緩勾配の掘削を基本とします。また、掘削高を平均年最大流量時の水位以下にすることで、冠水頻度を確保し、植生の繁茂を抑制します。
- 河道掘削時に伴う樹木伐採については、伐採による魚類、鳥類などの生息環境への影響を考慮し、伐採時期などの調整を行います。また、樹木については水害防備林としての機能を有する箇所もあり、必要に応じて再生するなどの適切な措置を講じます。

■掘削イメージ



■掘削順序イメージ

河道掘削において樹木伐採が伴う箇所については、同時期にすべて掘削を行うと、生物の生息・生育環境に影響を及ぼすことが予想されるため、伐採時期を調整することで急激な変更を緩和させます。



河川の多様性の再生・確保に努めます。

- 河川整備にあたっては、川本来の自然性を保全回復する「多自然川づくり」を継続的に実施し、水域と陸域の連続性に配慮し、水際の多様化を図ります。



●多様性に富んだ中流部(松浦川)



●多自然区間(相知)



●駒鳴旧川部(松浦川)



●旧川部の川づくりイメージ

下流から上流への連続性を確保します。

- 魚類が河川の上下流を自由に移動できるよう、施設管理者と連携し、必要に応じ堰等に魚道を整備します。
- 河道改修により旧川部となった区間について、保全・整備を行います。
- 河川につながる水際等においても、自治体等と連携し、必要に応じて連続性の確保に努めます。



●魚道設置前の固定堰



●魚道設置後の固定堰(蔵木下堰/蔵木川)



●魚道の様子

- 水路の落差改善、排水路と本川との落差の改善やピオトー池との連続性確保など、エコロジカルネットワークの形成により連続性を確保します。



●排水路と本川の落差改善

●エコロジカルネットワークイメージ

氾濫原的湿地の保全・再生

- 「アザメの瀬自然再生事業」において再生されつつある湿地について、自然環境に応じた管理(順応的な管理)を進めます。また再生が必要と考えられる箇所においては、調査検討を行い、対策を講じます。



●アザメの瀬(松浦川)

河口部の砂質干潟・塩生湿地を保全します。

- 河口部の流れや水質、カキ礁などのモニタリングを継続的に行い、必要に応じて保全策を講じます。貴重な塩生植物群落の生育空間を確保するように必要に応じて保全策を講じます。



●モニタリング(河口部)

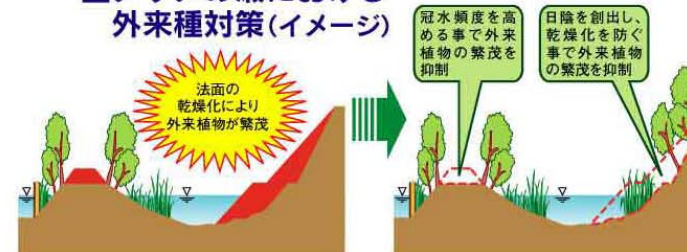
在来種の保全に努めます。

- 良好な河川環境の保全・再生、河川の多様性や河川の連続性の再生・確保を通して、在来種の生息・生育環境の保全に努めます。



●外来種駆除のための釣り大会

■アザメの瀬における外来種対策(イメージ)



●塩生植物群落(ハマツツナ)

人と河川との豊かなふれあいを創出するために

人と川のふれあいに関する施策を推進します。

- 水辺や河川敷等へ近づきやすいように必要に応じて親水護岸、坂路等を整備します。また、整備にあたっては、地域との連携、住民の参加、合意形成に向けたプロセス等を通じて計画を立案し、実施します。
- 整備を行った箇所については、市民と連携した「川の通信簿」による点検など、継続的なモニタリングを実施し、必要に応じた手直し等を行います。

ダムを活かした水源地域の活性化に取り組みます。

- すでに策定されている「蔵木ダム水源地域ビジョン」により、地域住民と行政が連携しながら、活性化のための活動を行っていきます。

川に親しむ取り組みを支援します。

- 川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習、川の指導者育成などを積極的に支援します。



●河口干潟の生物調査(松浦川)



●アザメの瀬・棚田での田植えの様子(松浦川)



●水辺の楽校を利用したカヌー教室(徳須恵川)

良好な景観の維持・形成のために

歴史と文化を継承した川づくりを行います。

- 流域の特性、土地利用、地域の歴史・文化等と調和した河川景観の保全に努めます。
- 流域内には建造当時の姿を残す井堰が存在し、これらの歴史と文化を継承するため歴史的価値を評価し、保全に努めます。



●井堰そばの石碑
●大黒井堰



●唐津城と調和した河川景観



●歴史文化に根ざした川づくりイメージ



河川特性や動植物の生息・生育状況に関するモニタリングを実施します。



●良好な河川環境を保全していくため、河川水辺の国勢調査の継続的実施や地域住民と連携した水生生物調査など、モニタリングを継続的に実施します。



●河口部の自然観察調査

良好な水質の保全に努めます。

- 河川及び厳木ダムの水質調査を定期的、継続的に実施し、動植物の生息・生育環境や水利用に対する影響等を把握します。
- 松浦川流域全体の水質等を保全し向上させるため、佐賀県及び市等と「唐津・東松浦地区等環境保全対策協議会」を構成しており、水質改善に向けた啓発活動及び水質事故発生時の対応等について、関係機関との連携を強化していきます。
- 地域住民等と情報交換を行い、連携を深め松浦川の更なる水質向上に努めます。



●水質事故



●環境保全対策協議会

適正な河川利用の促進に努めます。

- 河川空間の適正な利用にあたっては、治水、利水および動植物の生息・生育環境、河川景観との調和を図り、松浦川の魅力を向上させるよう、河川や地域の特性に応じた河川利用の促進に努めます。
- 船舶の不法係留や河川敷地の不法占用、不法投棄などに関して、河川巡視等による未然防止を図り、関係市や警察と連携し適切に対処します。

ゴミの不法投棄対策を講じます。

- 河川に流入・投棄されるゴミを減らす為、地域住民及び企業等の参加による河川の美化・清掃活動を自治体と連携して支援するとともに、ゴミの実態等を定期的に公表し、美化意識の向上を図ります。
- 洪水時などにおけるゴミや流草木などの流出に関しては、自治体及び農業用排水路の管理者等との連携を深め、河川への流出量の削減に努めます。
- 「アドプト・プログラム制度」などの全国の事例を参考に、地域活動・地域コミュニティによる河川美化等を促進していきます。



●地域住民による清掃活動



●ゴミマップ

「憩いの場として愛される松浦川を地域住民とともに」との認識に立った住民との協働による河川管理を推進します。

- 松浦川流域における歴史的・文化的施設や良好な風景等を後世に残すため、関係行政機関、佐賀県及び関係市との情報の共有化、各種施策の共同実施など連携を強化した事業展開を図ります。
- 地域間の交流・利活用を促進することで人と川のつながりの再構築を図ることを目標に松浦川における広域的な活動拠点のネットワークを形成します。



●出前講座での魚の観察会

- 河川に関する情報を関係機関や地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育などの充実を図るとともに、住民参加による河川清掃の推進等、河川愛護の啓発活動等に取り組めます。

海も含めた流域拠点のネットワーク化 (川と海のコラボレーション)



地域の将来を担う人材の育成・発掘に取り組めます。

- 川づくりを進める上で、川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習など水辺の自然体験活動等の機会を提供し、将来を担う子供たちへの環境学習を積極的に支援します。
- 自然体験活動の指導者育成・発掘に取り組むとともに、これまで度重なる水害や渇水を経験した地域住民がもっている知識や知恵等を伝承していく「語り部の達人(仮称)」といった人材の育成にも取り組みます。



●リバーズスクールの様子



関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進します。

- ホームページ、広報誌やラジオ、テレビ、新聞等を利用して、広く情報提供を行い、情報の共有化、意見交換の場づくりを図り、「松浦川らしさ」を活かした河川整備を進めていきます。



●アザメの瀬検討会の様子



●武雄河川事務所HP

●武雄ホットニュース